

令和 6 年度

なら 熊谷市立奈良中学校

社会奉仕体験



能登地震義援金
熊谷市立奈良中学校（熊谷市上奈良、松本校長、生徒数48人）は3万24円を義援金として生徒会本部（富岡慎太郎会長）が企画し、1月28日と31日に生徒会本部役員・奉仕委員会の生徒が昇降口前で募金活動を行い、生徒や教職員、保護者から集められたもの1写真。

全学年

特色

- 本校では、令和6年1月に発生した能登半島地震、4月に発生した台湾東部沖地震の被災者支援のため、生徒会本部役員・奉仕委員が中心となって『ならっきー募金』を実施した。
- 実施にあたっては、生徒会による放送・ポスターによる呼びかけ、募金箱の作成など、寄付しやすい環境づくりを行った。

生徒の感想

- 生徒会役員「思った以上の寄付があり、とても驚きました。特に2回目の実施では、1回目の経験を生かし、自分たちから積極的に声をかけることができました。」
- 寄付した生徒「被災者に何かしたい気持ちはあったけれど、どうしてよいかわからなかった。こういう機会があってよかった。」

成果

- 生徒会中心で取り組むことで、気持ちを形にする場ができ、支援の輪が広がった。多くの寄付につながったと思う。
- 回数を重ねるにつれ、事前の準備や当日の取組などが柔軟になり、学校全体の積極性が増した。この経験が、その後のフードドライブによる日用品等の寄付活動にも生かされた。